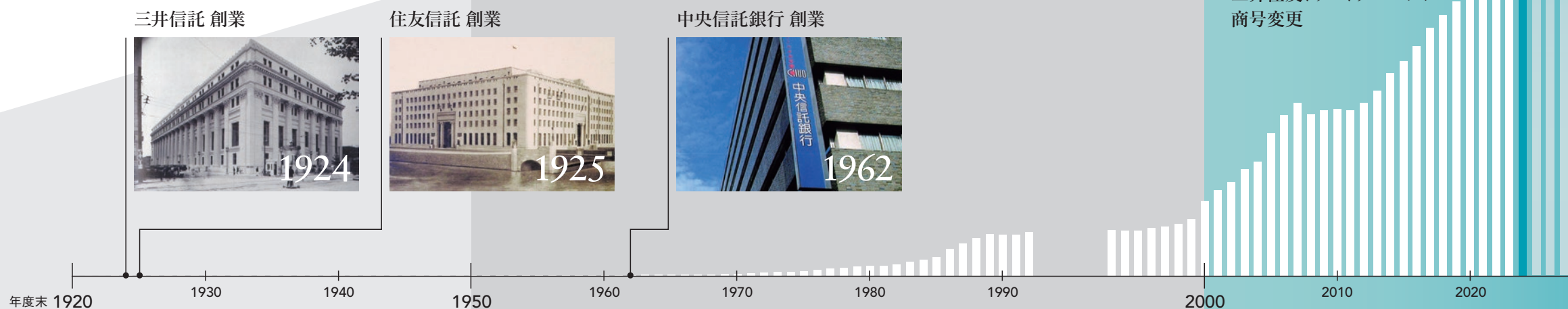


当グループのあゆみ

挑戦と開拓の歴史。信託の力で、時代により変化するさまざまな社会課題を解決



- 1924 三井信託 創業
- 1924 金銭信託の受託を開始
- 1925 住友信託 創業
- 1925～ 不動産分譲事業への取り組み
- 1929 貸金庫および保護預かりの保管業務の開始
- 1948 銀行業務の開始

- 1952～ 貸付信託で戦後復興、高度経済成長を支える
- 1956～ 動産設備信託で交通インフラ整備に貢献
- 1958 証券代行業務の開始
- 1962 中央信託銀行 創業
- 1962 年金信託の開始
- 1981 新型貸付信託「ビッグ」の取り扱いを開始

創業100年



三井住友トラストグループに
商号変更

- 2003 SRI（社会的責任投資）ファンドの取り扱いを開始
- 2011 三井住友トラスト・ホールディングス発足
- 2023 国内総合型インフラファンドを組成
- 2024 創業100年 三井住友トラストグループへ商号変更
- 2024 「新型金銭信託＜フューチャートラスト＞」の取り扱いを開始

2025年3月末時点

信託財産受託残高※

1,825兆円

出典：信託協会統計資料 全国信託財産調データ
※国内で信託業務を営む金融機関等の計数の集計

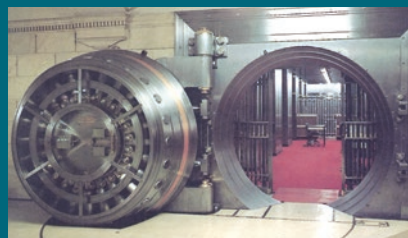
次の100年へ

当グループは、創業以来、信任と誠実を根本とする信託の真髄を根底に、より豊かな社会の実現に貢献してきました。リスクをとって未来づくりに挑戦する事業者を支え、お客さまが安心して投資できる土壌をつくり、確かなリターンをお届けする役割は、今も、これからも変わらない、普遍的な「信託」の姿です。

次の100年も、その先も、当グループは、お客さまをはじめとするあらゆるステークホルダーからの信任に応えるべく、「挑戦と開拓」を続け、託された未来をひらいてまいります。

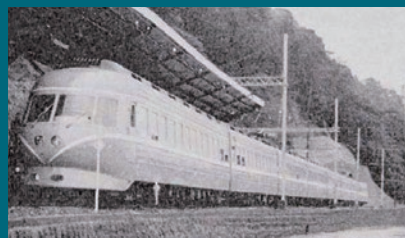
2000～2030年代
これからの三井住友トラストグループ

－ 1929～



信託会社設立の準備を進めていた1923年に関東大震災を経験し、財産管理の重要性を痛感したことから、堅牢な大金庫を設置し、貸金庫および保護預かりの保管業務を開始しました。

－ 1956～



時代の要請にこたえて、日本初の動産設備信託（車両信託）を受託。信託車両第1号となったのは小田急電鉄の初代ロマンスカーでした。その後、船舶、バスなどに対象を拡大させながら日本の交通インフラ整備に貢献しました。

－ 1962～



高度経済成長の労働力確保や福祉増進に対応するため、企業（団体）向けの適格退職年金などの取り扱いを開始しました。その後も、国の制度・税制措置や時代のニーズに合わせて、年金信託をはじめとする運用・管理業務の領域を拡大していきました。

－ 1981～



新型貸付信託「ビッグ」は、運用収益が再運用されることによる高利回りを実現し、金利選好を強めていたお客さまの間で大きな人気を呼びました。その後も実績配当型の金銭信託「ヒット」など、信託の機能を活かした貯蓄・運用商品が誕生していきます。

－ 2000～



社会奉仕的な財産管理機関という側面も持つ信託銀行として、創業以来社会貢献を重要な指針とし、2000年代には日本初のSRIファンドの取り扱いを開始し、その後も環境・金融教育などSDGsに先駆けて社会課題の解決に取り組みしました。

－ 2023～



「資金・資産・資本の好循環」を経営のトップアジェンダに掲げ、投資市場として未成熟な国内インフラ領域への投資機会を提供するインフラファンドの組成や、人生100年時代の資産形成とサステナブルな社会の実現に向けた資金循環を同時に実現する「新型金銭信託＜フューチャートラスト＞」の取り扱いを開始しました。